

## あ と が き

昨年9月25日、厚生大臣のご出席を得て、社団法人としての本会再出発のお祝いが出来ましたことは、みなさまのご努力のお陰と大変感謝しております。

さて、皆々様のお世話になって発足いたしました本会もその目的を達し、それまで張りつめていた気持ちがゆるんだせいか、法人化記念号とすべく本号発刊が大変遅れてしまいました。大変申し訳ありません、深くお詫びを申し上げます。

法人化以来、臨床工学士の問題でいろいろと準備に追われておりますが、透析技士諸君の身分がこの制度により保証されれば、大変結構なことと思います。一方、2年振りに改正されました診療保険点数の問題につきましても、まだまだ解決していかなければならない問題が山積しており、本会の今後の使命は大変であると思っております。

7万余の透析患者さんのため、よい治療とともに適切な施策が行われ、透析と移植の両輪が上手にかみあって行われる日が一日も早く到来するよう努力してまいりたいと思います。

編集担当者として、本号発刊が遅れましたこと、再度、お詫び申し上げます。

日本透析医会副会長兼務理事 太田 裕 祥